

平成23年 9月 第303号
大代地区コミュニティ推進協議会
(広 報 部)
事務局 : 大代地区公民館
Tel 080-5064-9319

ふれあい

掲載目次

- 学校支援、登下校見守り活動について・・・1
- “震災”ボランティア活動ありがとう・・・1
- 仙塩浄化センターからのお知らせ・・・2
- 私たちのこころ・・・3
- 大代の歩み(三十八)・・・3

学校支援、登下校見守り活動について

大代南区町内会長 橋本 浩

三月十一日は、東日本大震災により被災し、忘れることができない一日となりました。そのときは、子供達にとつて授業が終わり、下校する時間でもありませんでした。しかし、このときばかりは、訓練はしているものの、子供さんのご両親にとつて、迎えに行きたいのに行けないと云う何とも苛立たしく、居ても立つてもおれない状況であったと思います。通常東小学校では、校長先生を始め諸先生が学校内で防災訓練をした後は、親に引き渡すと云うことを毎年訓練していましたので、こうしたことも大事に至らなかつた要因の一つであると思つています。ただその日は、一日中親と会えることができなかった児童が何人が居りましたので、先生方が学校に泊まりがけで子供達の面倒を見ておりましたし、体育館に避難した人達に対してもいろいろ世話をしてくれておりました。こうした中、子供達と保護者の安否確認もされていたようですが、なかなか連絡がつかず大変苦労されていたようです。校長先生を始め、諸先生の方々には、いろいろご心配いただき心から感謝しております。

私達は、六年前から子供達の安全と健やかな成長を願うため、通学路で毎日子供達の見守り活動を続けており、隣の地域の方々と連携して登下校の時間に合わせ、子供達の姿が見えなくなるまで見守っています。いつものように、私が「おはようございます！」と挨拶すると元気よくニコニコした顔で「お

はようございます！」と挨拶が返ってきます。そしてチョツと声をかけると「いつてきまーす！」と元気の良い声が返ってきます。実に清々しい気持ちになります。この毎朝の出会いには、私にとつて心が癒され、子供達からパワーをもらった一日の始まりです。よく考えてみると自分にとつては、こうしたことも健康づくりの一つかと思つています。

最近また余震が続いておりますが、子供達の登下校時災害に遭わなければいいなと思つています。特に小さい子供や小学生が心配でなりません。どうか地域の皆様、今後とも学校と地域の連携を密にし、総ぐるみで見守っていきたいと思つておりますので私どもの活動にご協力、ご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

“震災” ボランティア活動ありがとう

大代南区 渡辺 正平

三月十一日午後二時四六分、私達は、地区公民館まつりの準備作業の最中でした。私はあまりにも大きな揺れに館内では危ないと思ひ玄関の扉を開き外に出ましたが、地割れが発生していることから頭上の電線、電柱の揺れや軋む音に四方八方気を配りながらやつと立つておりました。そして一旦地震がおさまったので、すぐ館長に声をかけ全員を自宅に帰してもらおうようにしました。その後私は館内を見廻りし、異常なしを確認してから自分の車で帰ろうとしましたが、地面の隆起に伴い、全く動かない状

態でしたのでそのまま置きっぱなしにして、大きな声で「津波がくるから早く避難してください！」と叫びながら小走りで帰りました。

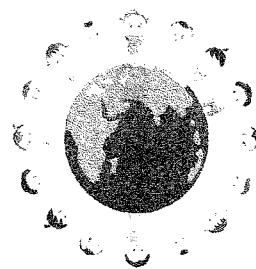
家に戻り簡単な着替えと両親の位牌だけを持って家内と一緒に高いところにある母の実家へ避難しました。津波は間もなく私達のいる近くまで押し寄せてきました。外は寒さも加わり粉雪混じりの雨になっていました。夜七時頃、ガス精製所の出火でカスタンクの爆発音がとどろき、それが未明まで続いて不気味な感じで眠れませんでした。私は翌日早朝、町内の見廻りに出ましたが、津波の冠水がひどく思うように歩けませんでした。七時二〇分、団地集会所で区長や役員さん方と情報交換を行いました。集会所内では避難された方や体調の悪い方が休んでおりましたが、それらの方々のためにみんなで協力し合い、気配り目配りをしながら救護活動を行っていました。私もその姿を見て感激し、感謝の気持ちで胸いっぱいになりました。また、団地自治会では熱海会長のもと協力して炊き出しのおにぎりを作っていました。私も避難者十一名分のおにぎりをいただいで帰り朝食としてみんなで美味しく食べました。

午後四時頃、仙台の長男が迎えに来てくれたので自分達だけ逃げるよう心苦しかったのですが、とにかく今夜からの寝る場所として長男宅に避難することに決め、みんなにお礼を述べて帰りました。仙台では水道は出ていましたが停電が続き、電話も全く通じませんでした。更に日用品や食料、車のガソリンも買えず、何処にも行けませんでした。した

がって、大代に戻つての家の片付け作業は二日か三日に一度の仕事でした。家の津波による浸水は床上一六二cm程で大規模半壊の判定を受けました。三日目より家の後片づけを始めましたが、汚泥が付着してヌルヌルし水分も含んでいることから、重く二人一組で声をかけ合つての搬出でした。津波は床下から突き上げて浸入、畳、カーペット、床下収納庫や鉄製掘り炬燵全体を押し上げ、下足箱は奥の浴室に突っ込み、床の間の陳列品や装飾品は玄関や茶の間で散乱しており、更に汚泥は戸棚、タンスの引き出しの中、冷蔵庫等の電化製品一切と地震で剥げ落ちたもの、棚から抜け出た物などをまとめて攪拌しながら汚泥漬けにしておりました。その他、米、缶詰類、乾物などの食料品なども全て廃棄品となりました。ボランティアの方には、三月中旬頃から週一回の割合で五回程来ていただきました。ボランティアの皆さんは、リーダーがその日の作業内容を私達から聞き、適切な指示を行って、テキパキと順序よく作業を進めてくれました。悪臭のある二、三cmの厚みのヘドロをバケツで汲み取り土のう袋に入れて運ぶ作業では、手袋とスコップ、ヘラで一つ一つ取り除きながら、必要なものと不要なものに分けて持ち出していました。また、押し入れの寝具類、衣類、洋服箆筒、和箆筒、本箱、畳、カーペット、カーテンなどの運び出し、床、タイル、建具の水洗い清掃、家の外周清掃、床下のヘドロ取り、消毒まで丹念に実施して頂きました。

今回の震災支援ボランティアの皆さんは、何らの報酬もなく、昼食は自分持ちで手弁当やコンビニ弁

当を食べていました。労働時間は午前九時又は十時頃からで昼食休憩時間を含んで六時間程でした。宿泊は、自家用車、自分のテント、簡易ホテルなどを利用していました。ボランティアの皆さんは容易でない条件でも被災者を救いたいと思う一心から参加しており、その勇氣ある行動に私達も報いるため頑張らなければならないと思いました。ボランティアの皆さん本当にありがとうございました。



つながろう！大代・多賀城

仙塩浄化センターからのお知らせ

宮城県中南部下水道事務所

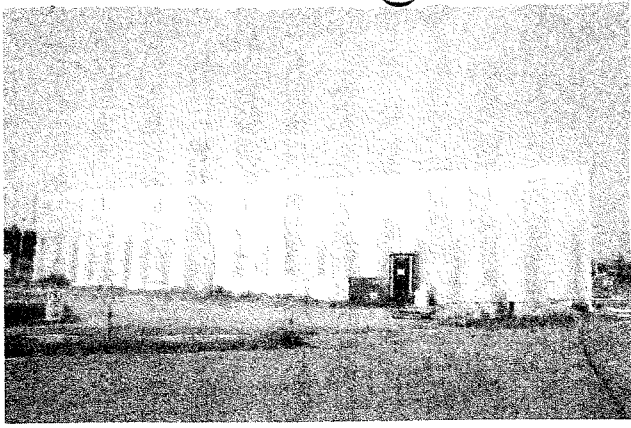
日頃から宮城県下水道行政の推進につきまして、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

仙塩浄化センター周辺の臭気については、住民の皆様に変なご迷惑をおかけしております。八月号で誌面をお借りして説明させていただきました三つの臭気の発生源について、現状をご報告させていただきます。

緩衝緑地公園内に設置しました仮設沈殿池については、七月中に撤去が完了いたしました。二つ目の浄化センター内に仮置きしている汚泥につきま

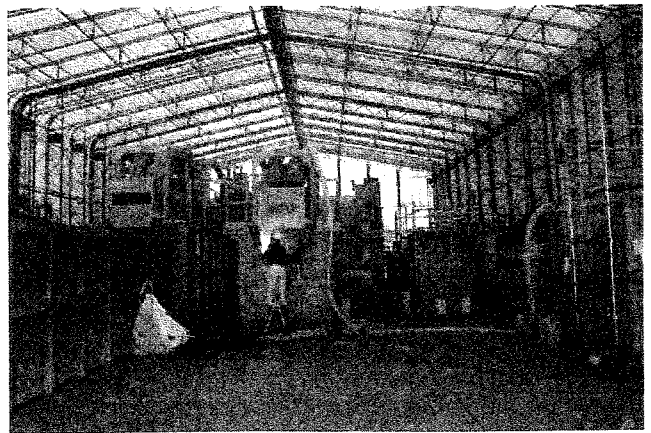
しては、シート及び覆土作業が八月中旬に完了しました。これらは、十一月から場外へ搬出する予定です。最後に、水処理施設内に貯留していた汚泥については臭気が外部に漏れない様に仮設テントを設営し、更に仮設の脱臭設備を設置した上で、現在場外への搬出を進めております。(左図参照) 作業は、消臭剤の散布等を実施しておりますが、作業の内容や風向きによっては臭気を感じる事があるかもしれません。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

今回仙塩浄化センター周辺の被災者の方々への支援といたしまして、水中ポンプの貸し出しをさせていただきます。地震津波被害により被災した個人利用の井戸を個人が復旧する際の機器として、水中ポンプを貸し出しますのでご利用ください。



大型仮設テント

汚泥を搬出する際に発生する臭気の飛散を防ぎます。作業は全てこの内部で行います。



大型仮設テント内部

汚泥を脱水する仮設脱水設備や脱臭設備が設置されています。

対象者 多賀城市大代五地区住民
 対象 多賀城市大代地区にある個人所有の井戸
 期間 平成二十三年八月から平成二十三年十月
 末まで

申込み 各地区の区長に申し出してください。
 問い合わせ先 宮城県中南部下水道事務所

(367) 4001

私たちのこころ

大代西区 佐藤 聡子
 私たちは、このたびの大震災で思いがけない被害とショックを受けましたが、今の不安な心にも限り

があるということをお話ししてみたいと思います。

私たちは、今回のような思いがけない出来事によって、日常が奪われ、突然先が見えなくなると、何か得体の知れない不安に襲われます。つらい体験や悲しい気持ちは何度も押し寄せて、何も感じられなくなる場合があります。けれども、不安は自分の身を守るための大切な反応であり、いざというときに危険を回避できるように注意を促す信号でもあるのです。この不安は、いつまでも続くことはありません。人間には心身を調整する力があると云われています。

しかしながら、今回の経験はこれまでに誰も体験したことのない大変ショックな出来事でしたので、時間をかけて、他の人とコミュニケーションをとったり、助け合いながら、不安が少しでも減るように取り組んでいく必要があると思います。

大代地区も被害の程度は様々ですが、地域の繋がりをより大切に、力を合わせて以前の姿を取り戻せるようにしていきたいものです。

大代の歩み (三十八)

大代南区 渡邊 巖

此の決議の趣旨は、総督側に嘆願書として提出されたが、下級参謀である世良修蔵は強硬な意見で会津討伐を譲らず、この嘆願は閏四月十七日、奥羽鎮撫軍総督によって正式に拒否された。

こうした決定に対して、此の頃から奥羽諸藩側に

は薩長両藩兵討伐の動きが現れ、中でも世良修蔵の横暴無礼な言動は天皇の意思を受けた者の行為とは到底思えず、正式の官軍に非ずとしてやがて世良修蔵は福島において仙台・福島藩士などに殺害された。同時に奥羽諸藩と薩長中心の鎮撫軍との間に本格的な戦闘が始まった。

これ以後は、奥羽諸藩同盟に北越六藩が加盟して三十一藩から成る奥羽越列藩同盟が五月三日に成立した。然しその後、総督側から列藩同盟諸藩への働きかけで、同盟離脱の発生など紆余曲折を重ねていったが、同年七月に入ると、福島・新潟方面での戦況は日に日に列藩同盟側に不利となり、敗色が濃くなっていった。七月二十九日の二本松、八月二十三日の会津若松の包囲戦では、紅顔の少年達も戦争の犠牲になった。此のころ仙台藩兵は藩境の防備に主力を置くようになり、事実上同盟は崩れていったのである。

会津藩は九月二十二日まで籠城抵抗を続けたが、九月十五日に仙台藩が降伏して政府軍が入城し、列藩同盟の中樞が失われ、他藩もその後を追った。一方、降伏に不満を持つ一部の仙台藩士は、当時松島湾に停泊中の榎本武揚が率いる旧幕府軍の艦隊に加わり蝦夷地へと脱走し、箱館の五稜郭などで戦ったが、明治二(一八六九)年五月、榎本軍の降伏によって戊辰の役は終わった。此の戦争における仙台藩士の戦死者は千二百人以上とされるが正確には判っていない。

続く

ふれあい短歌

大代西区 藤田 遊子

《東日本大震災に因み 短歌》

我が子呼ぶ声も途絶えし若き母

津波に沈む母子も家も

貞観の津波にまさる大津波

東日本を一網打尽

大津波おそひし町の波退けば

家も漁船も姿見えざり

翁訪ひし末の松山空晴れて

津波越さざるスリー・エレブン

大津波退けば優しき太平洋

細波光り海鳥遊ぶ

ふれあい俳句

大代西区 藤田 遊子

《東日本大震災に因み 俳句》

避難所へ 急ぐ春泥 車椅子

大津波 退きし浜辺や 燕来る

避難所の 毛布一枚 冴返る

塩害に 一輪咲きし 黄水仙

道ぶさぐ がれきの山や ほととぎす

お知らせ

○ 大代地区の特定健康診断(健康診査)の日程と実施場所について

大代地区(全区)は、九月十五日(木) 陸上自衛隊多賀城駐屯地で行われます。

受付時間は、午前九時三十分～十一時三十分、午後一時三十分～三時三十分となっております。

○ 市議会議員選挙投票所の一部変更について

大代地区公民館は、東日本大震災で津波の被害を受け、現在休館しております。このため、今まで公民館を投票所とされていた方は、九月十一日(日)の多賀城市議会議員選挙の投票所が小野屋ホテルに変更になりましたので、ご承知下さい。詳しくは市議会議員選挙投票入場券でご確認下さい。

※ 大代地区公民館の固定電話は、都合により不通となっております。ご用のある方は、左記の番号にお願いします。

Tel 080-5064-9319

